## 商工会議所活用レシピ

FILE 08

# 震災復興 漆器のまち「輪島」に再び元気を！

日本海に突起した能登半島の最北端に位置する輪島市で、塗師屋として輪島塗の製造販売を営む弊社の創業は明治中期。現在工房では、三代目親方の塩士正英を漆頭に、伝統工芸士認定資格保持者4人が中心となり輪島塗の製造に携わっています。

弊社は業務用漆器の受注生産を主に手掛けていますが、近年は「輪島工房長屋藤八屋店」で日常的に使っていただける器・アクセサリー・小物などの紹介や、仏具専門店などとのコラボレートによる、オリジナル商品の製造を行っています。私は、現代の住空間で「漆（うるし）のある暮らし」を気軽に楽しんでいただくため、輪島塗とガラス・陶磁器などのコーディネートや、輪島塗の使い方の提案を行うなど、輪島塗の啓発活動を積極的に行っています。

輪島商工会議所とは、先代が設立時からご縁があり、半世紀近くにわたり、経営相談などで力になっていただいております。特に同所の里谷光弘会頭は、自らマグロが泳ぎ続けるがごとく日々ご奮闘され、職員の方々も休日返上で輪島の発展のために真摯（しんし）にご尽力されています。平成19年3月25日の能登半島地震の大打撃に加えての世界的大不況の中、輪島塗産地を継続、発展させることは本当に容易なことではなく、産地が一丸となって一層精進する必要があります。弊社は、店舗・倉庫・土蔵までもが崩れて全壊。同所には、地震対策融資の窓口にもなっていただきました。おかげ様で震災から半年後に住居再建工事、そして2年4カ月たった今、本店復興の第2期工事も何とか開始することができました。

先月7～9日の3日間、東京・丸の内で開催された「第3回能登輪島物産展」では、輪島塗の展示販売をさせていただきました。催事は同所の会頭はじめ職員の方々にお力添えいただき、特に前倉弘美課長は会場側との打ち合わせ準備などにもご奮闘くださり、会期中も抹茶でのおもてなしや箏曲（そうきょく）演奏などで会場を盛り上げてくださいました。その姿は感銘の一言に尽きます。

先が見えない厳しい時代の中、「『漆器と観光』が元気なまち『輪島』」を目指し、弊社も真摯に取り組ませていただきます。震災後、輪島は日ごとに元気を取り戻しています。皆様、そんな〝輪島〟に、是非お越しください。

藤八屋
工房長屋店主
**塩士 純永さん**

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

### 担当者からひと言

能登半島地震の直後、弊所では職員が全会員を巡回。各会員の被害状況を把握し、それぞれに適した支援をさせていただきました。塩士さんが利用された能登半島地震対策融資では、弊所が窓口になり申請をお手伝いしました。

塩士さんも地震で大きな被害を受けましたが、「自らが元気でなければ」と、今回の物産展においても企画の段階からご協力をいただき、大変感謝しております。

伝統的工芸品である輪島塗と観光を中心とした、海の幸・山の幸に恵まれた輪島の魅力を全国に！そして全世界に発信するため、精一杯サポートさせていただきたいと思います。

輪島商工会議所（石川県）
経済交流課長
**前倉 弘美**